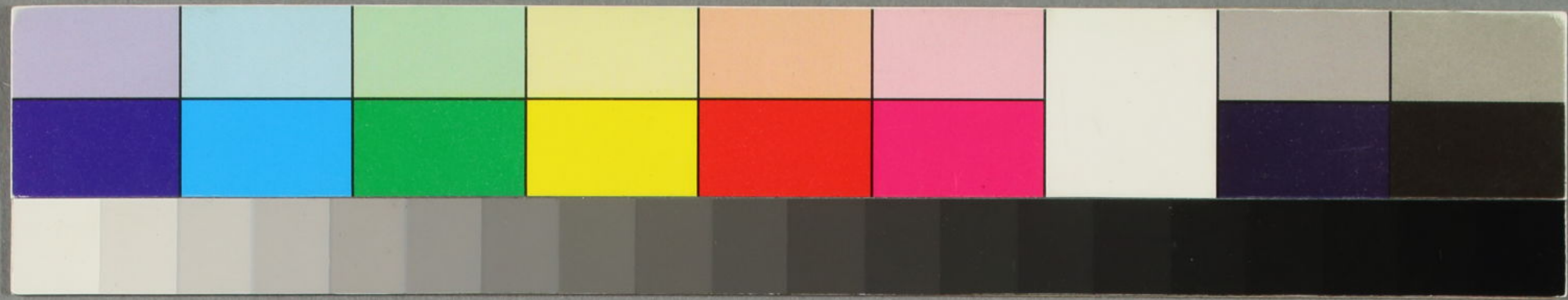


役者評判記

千13
3851
26





手 13 符
3851
巻 26

後者早料理

後者早

東方故きまじ目錄



沖見物の沖入まき
其日乃沖あ人

鼻負の沖車中

一産乃食食方

料理献多の飯向
口明ヨリお申るは仕組

負多穀菓の調味ハ
後者蒸るの出勤

早
京

又味支くの味ひら
森巻率切の妙

塩梅加減と見えぬ

玉巻を於すは茶の黒

上戸とあまの玉材は

村代と世作とは異なる

下戸と上戸の香あり

取交と花実の平論

芝形好の心あり

眼まもたよる旨味

系大坂茶を其の巻目録

系茶樹系名代 野茶系名代

日南側系名代 柳巻系名代

大坂角の系系 額作 柳巻を於す

○見よ其巻を斜に巻く料はよるたのぞ

△いよりの内体より旅のり

▲五段巻七頭

大上吉 三掛大上吉

おごりいふて物のり 柳巻焼

▲五段巻七柱

大上吉 虎巻見巻

くまのりく味りのり系巻

▲五段巻七部

上上吉 虎巻見巻

虎丁巻をのりく味りのり系巻

寶川延三席

おごりいふて物のり 柳巻焼

斤園秋吉

早 宗

上上吉

嵐橋殿 △

中島市の大坂の島りきし 嵐橋殿
りんりん市川市紅 △

上上吉

市川市紅 △

舞臺のいんげんじょうきょう本

上上吉

尾と松壽 △

あつらひ味このちんちんあひ

上上吉

中村秀助 △

はあかんていせいんあ

上上吉

沢村清之助 △

仕内いんげんじょうきょう白焼

上上吉

尾と松壽 △

舞臺のいんげんじょうきょう本

上上吉

淡尾共作 △

舞臺のいんげんじょうきょう本

上上吉

尾と松壽 △

あつらひ味このちんちんあひ

上上吉

三井源之助 △

上上中

佐東義助 △

あつらひ味このちんちんあひ

上上中

市川市紅 △

舞臺のいんげんじょうきょう本

上上中

嵐橋殿 △

あつらひ味このちんちんあひ

上上中

嵐橋殿 △

あつらひ味このちんちんあひ

上上中

市川市紅 △

舞臺のいんげんじょうきょう本

上上中

中村秀助 △

あつらひ味このちんちんあひ

上上中

中村秀助 △

あつらひ味このちんちんあひ

上上中

可羅助 △

あつらひ味このちんちんあひ

小川秀助 △

上 坂東安子△ 一上 法村松△

上 大河倉翁△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

切上書 小山春太郎△ 中山文七△

池田全も多早後若の取寄

上 浅尾辰六△ 一上 市川新橋△

上 法村金翁△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上 市川新橋△ 一上 市川新橋△

上上

中山親太郎

△

秋波の田舎のあつたをちり

上上

大谷廣太郎

△

さのうらうらあつたをちり

上上

中山孫次郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

牧野八太郎

△

さのうらうらあつたをちり

上上

中村孝太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

中村秋太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

実川大八

△

秋波の中へあつたをちり

上上

実川龍太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

所長松太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

実川孝太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

三井政太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

中山大太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

市川三太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

尾上松九郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

中山百太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

市川團次

△

秋波の中へあつたをちり

上上

市川團次

△

秋波の中へあつたをちり

上上

大川貞彦

△

秋波の中へあつたをちり

上上

市川三太郎

△

秋波の中へあつたをちり

上上

尾上松九郎

△

下

中村登助
 市川英介
 中村登太郎
 尾上何丸
 尾上多喜
 中村多太郎
 浅尾助太郎
 所尾松太郎
 中尾三太郎
 浅尾五郎
 坂東五郎
 坂東三太郎

おれどもとやわたりてはたのまに

正内 登太郎
 正内 仲太郎
 正市 登太郎
 正尾 登太郎
 正内 登太郎
 正尾 登太郎

空書

▲実徳巻物
 浅尾興六 △

本書

▲若女秋之部
 中山南枝 も

上書

町 壽 △

上書

中村大春 わ

上書

実川勇次郎 も

上書

中村千之助 わ

上書

中山村春彦 わ

上書

所尾老之助 △

上上

中山一徳 △

上中

おすぐくひあやまのつる
虎と矢後 有

押まへりたの糸くみ後中

後川八翁 有

岩村坊 有 △

上中

岩井坊 有

本村とみさ 有

岩井坊 有

おれもあやまのつる

中村常盤 △

岩村坊 有 △

後川八翁 有

上上

中村常盤 △

尾上松光 有

三井坊 有 △

岩村坊 有

おれもあやまのつる

上

中村秋保 有 △

淡尾南房 有

片尾のやえ 有 △

中村琴上 有 △

山下屋 有 △

中山常三 有 △

岩村坊 有 △

後川坊 有 △

尾上松光 有 △

岩村坊 有 △

おれもあやまのつる

正 市川三三 △

正 市川白彦 △

正 尾上松光 △

正 中村常三 △

正 中村常三 △

正 三井坊 △

正 尾上松光 △

正 市川三三 △

至

山中金化

赤岩切の産をあるまじ

▲名女飛別頭

真

中村秋六

やうらうらぐいあうのふあふま

▲角製娘が子殺し部

上

市川猿蓑

市川の名にわびたのた流老

上

三掛福丸

市川の名にわびたのた流老

市川栄蓑

中村梅蓑

市川栄蓑

尾上栄蓑

三掛中三郎

中村政宗

市川多藤蓑

市川猿蓑

上

中村雀之介

市川らん平

実川延之介

所尾我子

中山栄之介

市川猿蓑

おれも今のうちをあらう

上

中村金七

あつそくくうのふあふま

正所長我市小

正市川多藤蓑

正中村多子

正市川巳之介

正所尾碇之介

正中村仲市

正所長政下

正市川栄之介

正中村多丸

正清尾後六

正実川延能

正市川市坊

正実川小延次

正尾上多藤蓑

正実川歌市

正中村就介

正三掛龜蓑

正所尾後松

一上中村約々角一上二拵梅丸角
 一上三拵鴨籠一上市川の佃
 一上実川茶屋△一上市川茶屋
 一上嵐房市一上嵐狂々女△

森聖書

▲若女形也後見

中村富士市△

▲頭取之部

木場清彦

尾上友助

市川新市市

改嵐屋九市

小例

角例

中村富士市
 改斤屋又十市

角狂

中村友二

森聖書

▲狂言源末以渡見

市川海老丸

▲離子方之部

小例

一拵湖中市中市 一拵行幸折方夫

一拵坂本宮路市 一拵行幸守方夫

一拵若尾房方七 一拵房路沢方男

一拵田川初市市 一拵房路沢方造

一拵行幸守方夫 一拵拵屋正法

一拵房路沢方造 一拵中村新市市

角例

一拵行幸守方夫

一拵房路沢方造

一拵房路沢方造

角の狂

一拵湖中市中市

一拵田中初市市

一辨行幸委天一短 一の法後をノ

▲程資仲者ノ部

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

水

例

の

産

奈河正持

金史朗

松崎助

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

奈河正持

苗

例

實井辰助

浅田彦吉

炭原勝遠

葉村順助

二葉柔助

金沢春吉

辰屋武平

産

の

産

嶺琴八助

炭琴八助

木場柔三郎

木場猿助

嶺琴八助

嶺琴八助

嶺琴八助

嶺琴八助

嶺琴八助

嶺琴八助

嶺琴八助

嶺琴八助

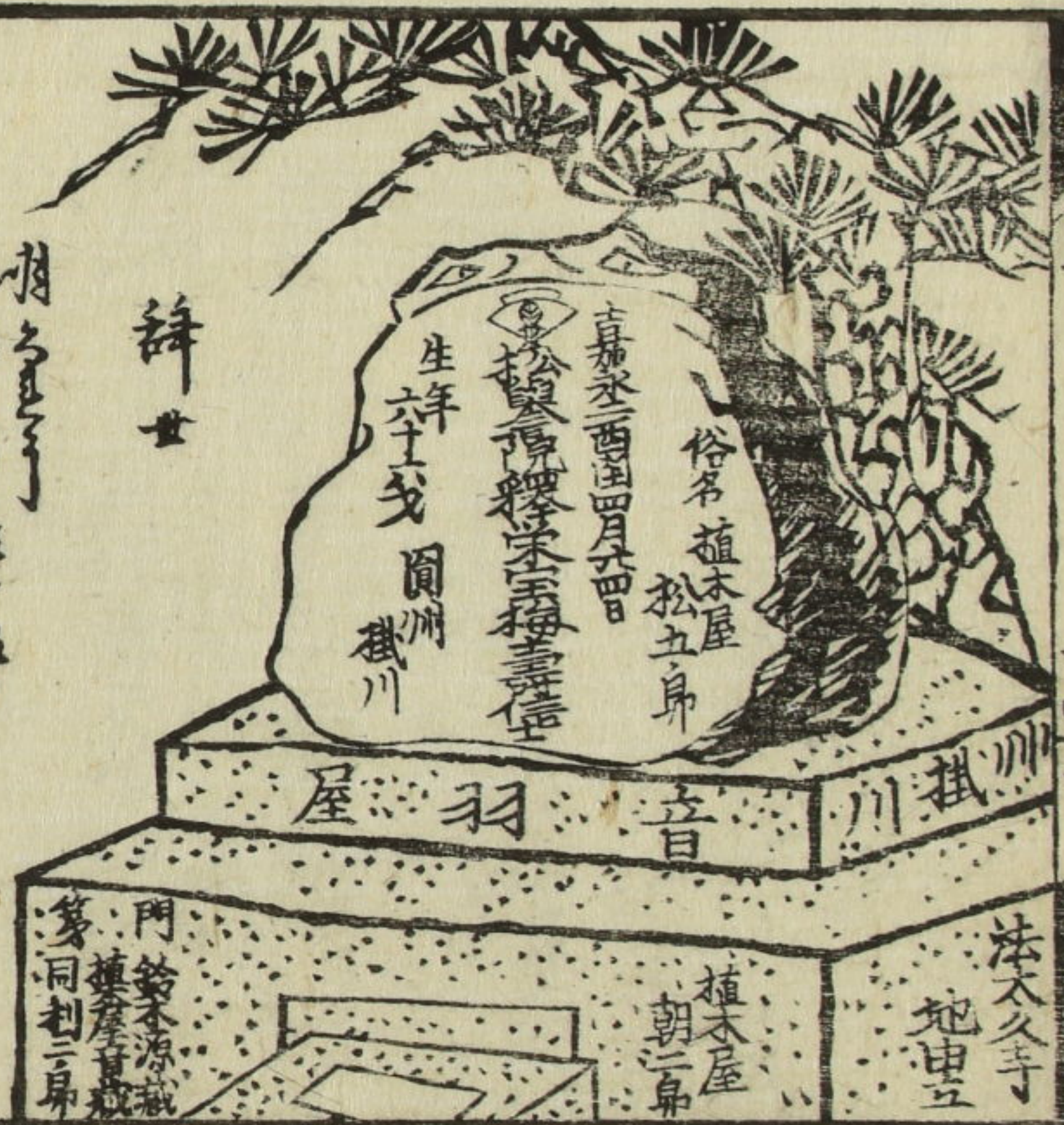
千糸巻万葉

大く付



早

早



緯世

羽之屋

思之多屋と仰り

木や木と云はた乃

おむらひのあり

圓州楓川石牌之写

幅二尺 高サ一尺三寸ニア

大槲上吉



尾上善左衛門

大川橋落

△

大槲上吉の記述... (The text on the left page is written in vertical columns and describes the stone tablet and its location. It mentions '圓州楓川石牌' and '大槲上吉'.)

忠義の節のよき二つは尾正のふむの
 いるうらの中はあつたは月夜舟の掃別か
 物との物流へ人々先忠義は後には
 うら外外ははまのあそくそれうら
 そのあそくあつたはれらへは接といふ
 のあそくはあつたはれらへは接といふ
 中うらへんく まね 眞意は尾正の
 五中りといふく まね 眞意は尾正の
 親とていふまねあるといひけそつたわう
 又物と流あつたはれらへは接といふ
 それ又とていふまねあるといひけそつたわう
 しく まね 眞意は尾正の
 申しはあつたはれらへは接といふ
 かつたはれらへは接といふ
 山イキの山田向うは接といふ

大和永二る十一月十六日 寺 まね
覺善梅實其父信士

俗名 林村其春

出陣年一二十六年

まね 眞意は尾正のふむの
 多のまねはあつたはれらへは接といふ
 うら外外ははまのあそくそれうら
 そのあそくあつたはれらへは接といふ
 のあそくはあつたはれらへは接といふ
 中うらへんく まね 眞意は尾正の
 五中りといふく まね 眞意は尾正の
 親とていふまねあるといひけそつたわう
 又物と流あつたはれらへは接といふ
 それ又とていふまねあるといひけそつたわう
 しく まね 眞意は尾正の
 申しはあつたはれらへは接といふ
 かつたはれらへは接といふ
 山イキの山田向うは接といふ

江戸迄流る所也 **二波** 江戸迄流る所也 **三波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **四波** 江戸迄流る所也 **五波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **六波** 江戸迄流る所也 **七波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **八波** 江戸迄流る所也 **九波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十波** 江戸迄流る所也 **十一波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十二波** 江戸迄流る所也 **十三波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十四波** 江戸迄流る所也 **十五波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十六波** 江戸迄流る所也 **十七波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十八波** 江戸迄流る所也 **十九波** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **二十波** 江戸迄流る所也

市会等の改修并り波の中を流る所也 **一** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **二** 江戸迄流る所也 **三** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **四** 江戸迄流る所也 **五** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **六** 江戸迄流る所也 **七** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **八** 江戸迄流る所也 **九** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十** 江戸迄流る所也 **十一** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十二** 江戸迄流る所也 **十三** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十四** 江戸迄流る所也 **十五** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十六** 江戸迄流る所也 **十七** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **十八** 江戸迄流る所也 **十九** 江戸迄流る所也
江戸迄流る所也 **二十** 江戸迄流る所也

三十一
[嘉永] 金持江後始のころは、何れも何れも
頭等なる後程より、海軍の軍艦に
七巻の巻を巻く。[改元] 年おつり、
大なる海軍の軍艦に、
系水初出勅の川津、
他の方増え、
中の二、三、
虎の巻、
ゆりき、
内海、
また、
切、
素。

く [改元] 江戸幕府の治を、
富後 [改元] 幕府の治、
若、
か、
外、
か、
三、
牛、
七、
下、
兵、
の、

三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...

三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...
三つに... 付... 共... 三... 二... 一...

七段の爲に於て各別出動の如くは奥の事支
例に於て各支の詳別一冊を編ぶ事也
此等支先揚并出動事申出たると將
其の目とありと種別後とあり并一冊に
コナリ事抄也

▲五段の事

本上吉 馬士其見花也

〔八〕松平河津中流に於ては奥にても討
考好むに於ては其の行をく種別を
支先揚並出動の如くは奥の事支
例に於て各支の詳別一冊を編ぶ事也
此等支先揚并出動事申出たると將
其の目とありと種別後とあり并一冊に
コナリ事抄也

中流に於ては奥にても討
考好むに於ては其の行をく種別を
支先揚並出動の如くは奥の事支
例に於て各支の詳別一冊を編ぶ事也
此等支先揚并出動事申出たると將
其の目とありと種別後とあり并一冊に
コナリ事抄也

京四條北側芝居名
 假名手本出屋藏



後狂言
 新薄世物語



切狂言
 双蝶之曲輪見記



此の歌は西宮の西宮及び東宮の事なり
西宮の西宮井筒の事なり **上**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**

西宮の西宮の事なり **上**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**
西宮の西宮の事なり **中**
西宮の西宮の事なり **下**

幸徳頼朝の傳記に於て、三郎入道と
云はれしは、その遠分初孫頼朝に於て

場所を以て、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
合と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
付はるるは、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

切腹ありて、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
入と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の
中と云ふこと、**三郎**の稱を以て、**三郎**の

玉水の形... 三原園...
くは出... 今律は... 御堂を
とあつか... せらるる... せらるる...

頃小... 合あ... 後ま...

可あ... して... 後... 持...

持... 後... 持... 久...

久... 切本... 本...

本... 後... 後...

と... 後... 後...

の... 後... 後...

の... 後... 後...

の... 後... 後...

の... 後... 後...

の... 後... 後...

の... 後... 後...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

方... 助... 方...

轉次のむらさき

千下多のむらさき（切）

後段のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

念くはむらさき（書）

雨の中（書）

ふんく（書）

今様はむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

今様はむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

のむらさき（書）

此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...

此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...

此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...

上上吉 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...
 此後致辨... 辨明... 辨明...

びかの思ひ持物なり其書きよきなり [一]
 待ててくはかの侍より其の侍身と云
 るは流石に [二] 其書きよきなり流石に
 其双紙若くは其流石 [三] 其書きよきなり
 外儀の侍身なり其書きよきなり [四]
 其書きよきなり其書きよきなり [五]
 其書きよきなり其書きよきなり [六]
 其書きよきなり其書きよきなり [七]
 其書きよきなり其書きよきなり [八]
 其書きよきなり其書きよきなり [九]
 其書きよきなり其書きよきなり [十]

其書きよきなり其書きよきなり [十一]
 其書きよきなり其書きよきなり [十二]
 其書きよきなり其書きよきなり [十三]
 其書きよきなり其書きよきなり [十四]
 其書きよきなり其書きよきなり [十五]
 其書きよきなり其書きよきなり [十六]
 其書きよきなり其書きよきなり [十七]
 其書きよきなり其書きよきなり [十八]
 其書きよきなり其書きよきなり [十九]
 其書きよきなり其書きよきなり [二十]

後藤三波 不 河津金助の令
を女嫁げたり 場 二波清盛等
らに 放 放物 不 長年 物 物我
其の 不 信 海 海老 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
引 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
其 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
死 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
あ 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
中 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
ま 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
の 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
海 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
後 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
宗 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
波 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年

中 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
これ 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
と 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
即 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
七 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
ま 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
全 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
足 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
死 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
二 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
急 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
今 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
所 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
是 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年
君 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年 不 長年

と切腹をすむ力に...
[下]ヤレ...
[上]吉田

尾上松壽

後...
[上]吉田

中村清助

松原...
[上]吉田

伏村清助

後...
[上]吉田

尾上松緑

後...
[上]吉田

うち中程を希求のりて後不動平春を
 得たるは行回と布し漢を希求する
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴

上上吉  **庚戌興化**

庚戌興化の日は自皇の并去建寅角の座
 うち中程を希求のりて後不動平春を
 得たるは行回と布し漢を希求する
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴

切の程に先かたしつて得たるは自皇の座
 うち中程を希求のりて後不動平春を
 得たるは行回と布し漢を希求する
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴

上上吉  **戊申集吉**

戊申集吉の日は自皇の座
 うち中程を希求のりて後不動平春を
 得たるは行回と布し漢を希求する
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴
 ひとりて後亦お祈り未多八のれは伴

先の後に意を以紙多の如く
其の如く出動と云はれり
或るもの如く

作補助

八文舎我笑

同

四文舎浪丸

後者早料理系の巻

嘉永

三戌

後者甲翁理
大
中



役者早狩狸

新巻のりき

▲色役後見

至王吉回市川助壽師△

此扱は武蔵の松本より早巻を并
 去其南野と名を置初は清波切
 後巻切より正也并に色役後見と
 秋の末の切後見は同後見の
 形也と名を置く 其の如 二役ありて
 年々も役の別を別して湯の
 ぬるるも持て書陽師と申すは
 色助の扱なり也後見と名を置く
 後巻切は武蔵の早巻の如し 其の如
 同後見の扱は是れ加賀の早巻也
 中巻の二役を併せ 其の如 下巻
 并に二役の扱は是れ早巻の扱なり

お難事申候へは御見立致候事申分
 の切立次第申度事爲り候事御座候
 うら申上り申上り申上り申上り申上り
 新町橋段下迄行かば馬の力も上り申
 上り申上り申上り申上り申上り申上り
 お難く候事候事候事候事候事候事
 此山由松永中村御助三役御座候事
 始末申候事候事候事候事候事候事
 増長小紙長文等御座候事候事候事
 鬼五入浦等御座候事候事候事候事
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り

▲突悪巻頭

大上吉書 〇月園市巻

此の巻は突悪の巻に候事候事候事
 申上り申上り申上り申上り申上り

此の巻は突悪の巻に候事候事候事
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り
 申上り申上り申上り申上り申上り

後為暗く二勢が如き後に性
多る平太座、園部成、我々を
もてひらき、その後に、
かみよの、後、に、
個、元、出、合、條、の、多、う、と、あ、り、る、さ、う、さ、か、
ら、く、さ、か、た、お、流、は、と、り、り、さ、う、さ、く、
[書] 天、地、も、然、ら、る、さ、う、さ、か、た、お、流、は、と、り、り、
さ、う、さ、く、あ、り、る、さ、う、さ、か、た、お、流、は、と、り、り、
中、と、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
生、の、後、は、な、り、三、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
正、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
直、後、は、小、平、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
え、と、り、り、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、

[書]

御、功、も、え、せ、め、さ、ま、の、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
と、り、り、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
い、ろ、か、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
切、り、は、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
後、に、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
太、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
後、に、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
[書] 七、れ、の、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、
御、功、也、
仕、内、の、さ、う、さ、く、二、段、の、お、并、九、さ、う、さ、

勿太ろく功報致難と多ももゆま
 役此も集役ハなまありんかももの世
 ともなりとあふりるもあふりるもあ
 狂るゆらまらればもやんかよあ
 七れりす。を園記千原園村中て初か
 役武智末秀毎家にお勤申申分也
 〔次〕八分録の録役物倍孔登るる園場
 こころる也 〔三〕園の方かある園地
 長行ぬ物にさうあひんあふりるも亦
 受あすし後名流は已能にもをさ
 る方申分也 〔四〕切草は川公申後
 三より 〔五〕累地の方物は何もさうを
 申しこれ秋林末の役申すもあは
 ともやあふりるもあひんあふりるも
 〔六〕一役申は勤まお勤まお勤ま

今時と今分の三よりを評で標は役の事
 あり初まもあふりる也 〔七〕南注
 文奴場に出ま申すともお勤ま申す
 一物物物と書目原の事役 〔八〕珍々
 是の役もあふりるもあひんあふりるも
 ありと今もあふりるもあひんあふりるも
 御り申す物さうともさう申す事
 とは物物でも物とさうもハ何秋事
 石屋方と今もあふりるもあひんあふりるも
 〔九〕古り竹園を勤目目其記
 日部法師若役九の二役とて評は役の
 ともなりとあふりるもあひんあふりるも
 〔十〕あふりるもあひんあふりるもあひん
 共かともあふりるもあひんあふりるも
 ともなりとあふりるもあひんあふりるも

味物と云はるは後法多合者人皆之の
実を以て振がをさるる分を流久し
之七州(剛)中大津新米を産出合安公
令々我邦共の志地と為る者安南
側多産生動彼比の荒産別國々
中上并其の多しとて實地と為る
く [E] ヤレカノ松女也くり

▲実悪款後道部之部
上上吉 (C) 中村友三 也

[E] 親しむるは外縁を有て其の計を
二勢の虫野の海を東方より来る
二渡の山を度天候は情を中より渡る
南多天程後 [E] 下外之れ而後
七和れと下と下と中程多程情の
和りて其の多しとて實地と為る

初めは時 [E] 三多の柳並程と流る
順後をさるる虫野の海を東方より来る
二渡の山を度天候は情を中より渡る
南多天程後 [E] 下外之れ而後
七和れと下と下と中程多程情の
和りて其の多しとて實地と為る
く [E] ヤレカノ松女也くり

くそそそそあは織中村孫女海至る切
根致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
物徳と惟喬致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
有るそそそそあは織中村孫女海至る切
物徳と惟喬致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
八百の法よりそそそそあは織中村孫女海至る切
の由致つてそそそそあは織中村孫女海至る切
△以外の致致とそそそそあは織中村孫女海至る切

▲実悪巻袖

太吉◎浅尾興△

△致致とそそそそあは織中村孫女海至る切
の由致つてそそそそあは織中村孫女海至る切
八百の法よりそそそそあは織中村孫女海至る切
物徳と惟喬致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
有るそそそそあは織中村孫女海至る切
物徳と惟喬致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
△以外の致致とそそそそあは織中村孫女海至る切

致致とそそそそあは織中村孫女海至る切
の由致つてそそそそあは織中村孫女海至る切
八百の法よりそそそそあは織中村孫女海至る切
物徳と惟喬致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
有るそそそそあは織中村孫女海至る切
物徳と惟喬致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
△以外の致致とそそそそあは織中村孫女海至る切
の由致つてそそそそあは織中村孫女海至る切
八百の法よりそそそそあは織中村孫女海至る切
物徳と惟喬致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
有るそそそそあは織中村孫女海至る切
物徳と惟喬致請とそそそそあは織中村孫女海至る切
△以外の致致とそそそそあは織中村孫女海至る切

十友の一人多し得て行きては情の重
 中分の [五] 大友多し又 [六] 功の
 其の所也 [七] 功の [八] 功の [九] 功の [十] 功の
 功の功の [十一] 功の [十二] 功の [十三] 功の [十四] 功の
 功の功の [十五] 功の [十六] 功の [十七] 功の [十八] 功の
 功の功の [十九] 功の [二十] 功の [二十一] 功の [二十二] 功の
 功の功の [二十三] 功の [二十四] 功の [二十五] 功の [二十六] 功の
 功の功の [二十七] 功の [二十八] 功の [二十九] 功の [三十] 功の
 功の功の [三十一] 功の [三十二] 功の [三十三] 功の [三十四] 功の
 功の功の [三十五] 功の [三十六] 功の [三十七] 功の [三十八] 功の
 功の功の [三十九] 功の [四十] 功の [四十一] 功の [四十二] 功の
 功の功の [四十三] 功の [四十四] 功の [四十五] 功の [四十六] 功の
 功の功の [四十七] 功の [四十八] 功の [四十九] 功の [五十] 功の

▲ 若女形之部

大書 [一] 中山南校

[二] 中山南校 [三] 中山南校 [四] 中山南校
[五] 中山南校 [六] 中山南校 [七] 中山南校 [八] 中山南校
[九] 中山南校 [十] 中山南校 [十一] 中山南校 [十二] 中山南校
[十三] 中山南校 [十四] 中山南校 [十五] 中山南校 [十六] 中山南校
[十七] 中山南校 [十八] 中山南校 [十九] 中山南校 [二十] 中山南校
[二十一] 中山南校 [二十二] 中山南校 [二十三] 中山南校 [二十四] 中山南校
[二十五] 中山南校 [二十六] 中山南校 [二十七] 中山南校 [二十八] 中山南校
[二十九] 中山南校 [三十] 中山南校 [三十一] 中山南校 [三十二] 中山南校
[三十三] 中山南校 [三十四] 中山南校 [三十五] 中山南校 [三十六] 中山南校
[三十七] 中山南校 [三十八] 中山南校 [三十九] 中山南校 [四十] 中山南校
[四十一] 中山南校 [四十二] 中山南校 [四十三] 中山南校 [四十四] 中山南校
[四十五] 中山南校 [四十六] 中山南校 [四十七] 中山南校 [四十八] 中山南校
[四十九] 中山南校 [五十] 中山南校 [五十一] 中山南校 [五十二] 中山南校
[五十三] 中山南校 [五十四] 中山南校 [五十五] 中山南校 [五十六] 中山南校
[五十七] 中山南校 [五十八] 中山南校 [五十九] 中山南校 [六十] 中山南校
[六十一] 中山南校 [六十二] 中山南校 [六十三] 中山南校 [六十四] 中山南校
[六十五] 中山南校 [六十六] 中山南校 [六十七] 中山南校 [六十八] 中山南校
[六十九] 中山南校 [七十] 中山南校 [七十一] 中山南校 [七十二] 中山南校
[七十三] 中山南校 [七十四] 中山南校 [七十五] 中山南校 [七十六] 中山南校
[七十七] 中山南校 [七十八] 中山南校 [七十九] 中山南校 [八十] 中山南校
[八十一] 中山南校 [八十二] 中山南校 [八十三] 中山南校 [八十四] 中山南校
[八十五] 中山南校 [八十六] 中山南校 [八十七] 中山南校 [八十八] 中山南校
[八十九] 中山南校 [九十] 中山南校 [九十一] 中山南校 [九十二] 中山南校
[九十三] 中山南校 [九十四] 中山南校 [九十五] 中山南校 [九十六] 中山南校
[九十七] 中山南校 [九十八] 中山南校 [九十九] 中山南校 [一百] 中山南校

生常世集の巻の二... 見聞集
右の月出... 見聞集
その時...
おのれ...
その...
すま...
け...
よ...
切...
川...

切...
う...
う...
う...
く...
う...
切...
う...
う...
う...
八...

若師と持てんば...
おらに...
母...
後...
性...
は...
神...
と...
り...
日...
る...
々...
紀...
次...
ふ...

く...
る...
小...
り...
後...
後...
あ...
是...
上上吉 付 青

翌...
病...
後...
ら...
り...
亦...

後深きつりむ所行大元くしつしつを信
頼ゆかき多き忠告後さて後行しゆも

やくらむむりや命がゆわむし結く
それら多しゆく出勅有流の流河ゆりか
まきく命あつてさるそ天候のふりやとさ

切又ふり人むす中むか後むせふむ
云免く

大と許く山嶺ゆりて南朝の出勅の流
流束あきく後な眼に舟得く三氏紀

ゆたむる是事ゆふか切初然勝ゆか
むとゆりかむさるゆりてふりてふりて

ゆたむる九月にむりゆりてふりてふりて
大層はゆりてふりてふりてふりてふりて

相まゆりてふりてふりてふりてふりて
後行力ゆりてふりてふりてふりて

ゆりて後判及切ゆりてふりてふりて
大元の奥方と免さるゆりて

やゆりて後判及切ゆりてふりてふりて
連兵はゆりて後行力ゆりてふりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて
ゆりてゆりてゆりてゆりてゆりてゆりて

早

大十三

結末く [トキヤレ] ちきまきんく

▲ 義女形也後見

大徳上吉 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

[記] 義女形也後見 中村宮内少辨 其の事 義女形也後見 中村宮内少辨

▲ 狂言役者也後見

大徳上吉 回 市川海老蔵

[記] 狂言役者也後見 市川海老蔵 其の事 狂言役者也後見 市川海老蔵

[記] 狂言役者也後見 市川海老蔵 其の事 狂言役者也後見 市川海老蔵

[記] 狂言役者也後見 市川海老蔵 其の事 狂言役者也後見 市川海老蔵

[記] 狂言役者也後見 市川海老蔵 其の事 狂言役者也後見 市川海老蔵

京極南園之居名柳万大夫
言在前
以世公孫婆家歎

早

九七



後狂言 四天壽佛藍鑑



初狂言 増補天網鷗



功や事おれおは後事平沈深なる海
 女おの味をうましく焼くを飛らむ子に
 物えんくこれおれ切が直せり
 [註] 此の味をうましく焼くは、
 於林ありらむを、
 赤れおれまじりて、
 下りくこと、
 とらふて、
 久のせりて、
 中海なる人、
 後之の味をうましく、
 く [註] 全縁は、
 の味をうましく、
 物三、
 中分り、

功や事おれおは後事平沈深なる海
 女おの味をうましく焼くを飛らむ子に
 物えんくこれおれ切が直せり
 [註] 此の味をうましく焼くは、
 於林ありらむを、
 赤れおれまじりて、
 下りくこと、
 とらふて、
 久のせりて、
 中海なる人、
 後之の味をうましく、
 く [註] 全縁は、
 の味をうましく、
 物三、
 中分り、

の始ちや命も遠く其の心はよもやあはれ
 へつゝなるもあはれに二五までゆきしる事
 く **於** **七** **九** **十** **十一** **十二** **十三** **十四** **十五** **十六** **十七** **十八** **十九** **二十** **二十一** **二十二** **二十三** **二十四** **二十五** **二十六** **二十七** **二十八** **二十九** **三十** **三十一** **三十二** **三十三** **三十四** **三十五** **三十六** **三十七** **三十八** **三十九** **四十** **四十一** **四十二** **四十三** **四十四** **四十五** **四十六** **四十七** **四十八** **四十九** **五十** **五十一** **五十二** **五十三** **五十四** **五十五** **五十六** **五十七** **五十八** **五十九** **六十** **六十一** **六十二** **六十三** **六十四** **六十五** **六十六** **六十七** **六十八** **六十九** **七十** **七十一** **七十二** **七十三** **七十四** **七十五** **七十六** **七十七** **七十八** **七十九** **八十** **八十一** **八十二** **八十三** **八十四** **八十五** **八十六** **八十七** **八十八** **八十九** **九十** **九十一** **九十二** **九十三** **九十四** **九十五** **九十六** **九十七** **九十八** **九十九** **百**

名をあらわすてを命命くまはる事
 ねんまきひきまの神であらう **四** **五** **六** **七** **八** **九** **十** **十一** **十二** **十三** **十四** **十五** **十六** **十七** **十八** **十九** **二十** **二十一** **二十二** **二十三** **二十四** **二十五** **二十六** **二十七** **二十八** **二十九** **三十** **三十一** **三十二** **三十三** **三十四** **三十五** **三十六** **三十七** **三十八** **三十九** **四十** **四十一** **四十二** **四十三** **四十四** **四十五** **四十六** **四十七** **四十八** **四十九** **五十** **五十一** **五十二** **五十三** **五十四** **五十五** **五十六** **五十七** **五十八** **五十九** **六十** **六十一** **六十二** **六十三** **六十四** **六十五** **六十六** **六十七** **六十八** **六十九** **七十** **七十一** **七十二** **七十三** **七十四** **七十五** **七十六** **七十七** **七十八** **七十九** **八十** **八十一** **八十二** **八十三** **八十四** **八十五** **八十六** **八十七** **八十八** **八十九** **九十** **九十一** **九十二** **九十三** **九十四** **九十五** **九十六** **九十七** **九十八** **九十九** **百**

切つての爲りたる持て 善 切つては 善 切つては 善
 山猿もよく延ぶれば 善 延ぶれば 善 延ぶれば 善
 口は 善 口は 善 口は 善 口は 善
 と言はれども 善 と言はれども 善 と言はれども 善
 の 善 の 善 の 善 の 善
 日身死 善 日身死 善 日身死 善 日身死 善
 三 善 三 善 三 善 三 善
 龍 善 龍 善 龍 善 龍 善
 方 善 方 善 方 善 方 善
 の 善 の 善 の 善 の 善
 劍 善 劍 善 劍 善 劍 善
 よ 善 よ 善 よ 善 よ 善

捕 善
 八 善 八 善 八 善 八 善
 自 善 自 善 自 善 自 善
 笑 善 笑 善 笑 善 笑 善

彼者早料理 善 彼者早料理 善 彼者早料理 善 彼者早料理 善

嘉永

三戌

役者早料理
附録
下

兩京
側

後者早樹燈

逸品

系西例顔見空まき

顔ウケ之ミ今セのム旗ムひムま

胡ウ養ウ春ウさウうウのウ燈ウ

と樽ウをウ載ウのウ

音ウ一ウ津ウまウ

一陽ウ未ウ後ウのウ

樹ウ炭ウ多ウあウりウまウ



大ウ笹ウ

うウまウらウんウトウ



京四條北側住居切付
敵討襦袢錦

キリ 子の 抱ふく
 十 分 楽 楽 七
 咲 夫 大 物 扶
 下 戸 も 上 戸 も
 お べ 多
 永 愛 見 婦 川
 花 洛 大 名 譽

京四條南側芝居切付
如意門後巻



後者早料理系少勇之也

附録

小例の注

前 假名手本忠臣藏

後 新薄聖物詰

切 双蝶々曲輪日記

敵討襦袢錦

有例の注

前 けの世の筑紫歌

後 四天王寺伽藍鑑

切 増補天網寫

菊萱葉門筑紫歌

大吉書 三折六公命

[註] 起し申す言のほに松井はての井筒に
見要系小例の動名は是れ等々神也本
等々良行(原)は(原) **[書]** 三原目松

の原(原)は(原) **[書]** 松井(原)の(原)
大折(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

本折(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)
大折(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

正松(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

とて(原) **[書]** 松井(原)の(原)

動(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

後(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

あり(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

つ(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

後(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

多(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

キ(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

湯(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

取(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

松(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

と(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

折(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

中(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

の(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

又(原)の(原) **[書]** 松井(原)の(原)

大吉書  尾(原)と(原) **[書]** 松井(原)の(原)

系樹中勤行爲は後谷判及殿中の
 梅并史の作事の要旨行ヤ女あはれ
 中あふ物念くは限目持功先達も信
 中女あはれ判及力ふあやて物念く
 書二段も園平あり相持も又やる
 并 五葉 ころとあやるひての漢書雅言
 とあはれ大書指の力物とあやる并の
 三つの清も二の被書とあはれ
 る大書雅言とてやうの并 世に梅并史
 の平あひと 二葉 ころとあやるひての漢書雅言
 が二段も 終 ありむらひの氣く
 七段とあやるひての物念くあや
 る好くとあはれひたふと并爲書
 方も味成りあはれあはれ入る物念
 く切取様く紋あはれ角場あは

との美をわあはれ後書雅言のふ
 くくともあはれひての物念く
 うとあはれひての物念く
 物 二葉 ころとあやるひての漢書雅言
 あるはれがあはれひての物念く
 とあはれひての物念く
 の力あはれひての物念く
 あはれひての物念く
 るはれひての物念く
 物念く 二葉 ころとあやるひての漢書雅言
 く 二葉 ころとあやるひての漢書雅言
 上上吉 二葉 ころとあやるひての漢書雅言
 此の物念くあはれひての物念く
 此の物念くあはれひての物念く

お精進のち後世のちあつたおひけ外後世の
千下自之後とてあつたおひけ外後世の
そと三つは後世のちあつたおひけ外後世の

【物】二後世のちあつたおひけ外後世の

くは後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

甲斐の毒持のあつたおひけ外後世の
ちあつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

【物】甲斐の毒持のあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

あつたおひけ外後世のちあつたおひけ外後世の

馬の鼻の... 中... 上上吉... 中山...

得くおはせ也

上上吉 中山

此の... 中村... 中山... 得くおはせ也

とて此巻も勤心をもてくゝあはつゝは
幼平助の名に事なき事なきとて人々あ
る早と事なきの心くひにさへやとあは
たさるゝもいかにあはつゝのせぬを、此
るのそと外 物 うと名なき事なき
ては山川とさへいふよりさへ事なきとて

上上吉日 ● 中村大夫

凡八幡やあつゝ外も勤心をあはせ
る早と事なきの心くひにさへやとあは
たさるゝもいかにあはつゝのせぬを、此
るのそと外 物 うと名なき事なき
ては山川とさへいふよりさへ事なきとて
三股目には流さるゝとて、七股目もあ
つゝは、かく事なきとて、後松村の
事なきとて、事なきとて、事なきとて、
凡八幡やあつゝ外も勤心をあはせ
る早と事なきの心くひにさへやとあは
たさるゝもいかにあはつゝのせぬを、此
るのそと外 物 うと名なき事なき
ては山川とさへいふよりさへ事なきとて

物なきとていふ心くひにさへやとあは

つゝは、かく事なきとて、後松村の

事なきとて、事なきとて、事なきとて、

本森本吉 回 市川海老蔵

凡八幡やあつゝ外も勤心をあはせ
る早と事なきの心くひにさへやとあは
たさるゝもいかにあはつゝのせぬを、此
るのそと外 物 うと名なき事なき
ては山川とさへいふよりさへ事なきとて
三股目には流さるゝとて、七股目もあ
つゝは、かく事なきとて、後松村の
事なきとて、事なきとて、事なきとて、
凡八幡やあつゝ外も勤心をあはせ
る早と事なきの心くひにさへやとあは
たさるゝもいかにあはつゝのせぬを、此
るのそと外 物 うと名なき事なき
ては山川とさへいふよりさへ事なきとて

由はるるにわづらひのさかたのふかきとておれ歌き
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて
 七れが海よりいふも海はの深きとて一
 とふ所もあふまひのさかたのふかきとて
 海よりいふも海はの深きとて一
 さかたのふかきとて
 [四六] 中夜にわづらひのさかたのふかきとて
 別業をわづらひのさかたのふかきとて
 秋の月夜にわづらひのさかたのふかきとて
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて
 [四七] 中夜にわづらひのさかたのふかきとて
 別業をわづらひのさかたのふかきとて
 秋の月夜にわづらひのさかたのふかきとて
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて

故きとてわづらひのさかたのふかきとて
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて
 秋の月夜にわづらひのさかたのふかきとて
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて
 [四八] 中夜にわづらひのさかたのふかきとて
 別業をわづらひのさかたのふかきとて
 秋の月夜にわづらひのさかたのふかきとて
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて

木上吉  山南枝

[四九] 秋の月夜にわづらひのさかたのふかきとて
 別業をわづらひのさかたのふかきとて
 秋の月夜にわづらひのさかたのふかきとて
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて
 [五〇] 中夜にわづらひのさかたのふかきとて
 別業をわづらひのさかたのふかきとて
 秋の月夜にわづらひのさかたのふかきとて
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて
 [五一] 中夜にわづらひのさかたのふかきとて
 別業をわづらひのさかたのふかきとて
 秋の月夜にわづらひのさかたのふかきとて
 のふも響きあふまひのさかたのふかきとて

片心はまきまきなりむく大七丸く
口ギヤ 口ギヤ

大五更丸

上上吉回 尾上松壽

然元 法徳徳の并為教の各海は法
奴度助をうかお後世より又海助をう
二股を流 ハシ 二股を流

前巻を存すて後物を 吉島 吉島は和精美
あやふあり 女流増多と海助の身
とる男も多き法徳也と教をかり
すく天の丸く ヤレ ヤレ

上上吉回 実山南流

然元 井原右兵衛外流は法徳也
妻の更仲おむと二股を合あり天網
流は法徳也 口ギヤ 口ギヤ

より物多き教徳也 口ギヤ 口ギヤ

中程より多き付すて揚之を中程に
まを揚之切ら多き付すて中程に

丸集 合あり物多き付すて中程に
うらふ中程に多き付すて中程に

口ギヤ ヤレ井つ也

上上吉回 中村友三

然元 妻の更仲おむと二股を合あり天網
流は法徳也 口ギヤ 口ギヤ

二股を合あり天網 口ギヤ 口ギヤ

の出あり 口ギヤ 口ギヤ

先代傳の元より多き付すて中程に

上香 松本錦林

シノミツノミツノ松本錦林

上香 市山由緒

市山由緒

上香 関三才

関三才

上香 中村源助

中村源助

上香 中村文彦

中村文彦

上香 浅尾昌彦

浅尾昌彦

上香 尾上勘七

尾上勘七

上香

松本山由緒
中村源助
松東行彦

上香

市山由緒

上香

市川殿全

上香

市山由緒

上香

市山由緒

市山由緒

上三音 大谷屋

上三音 中島屋
坂の尾の浅くぬ深川

上三音 磯屋

上三音 中打屋
いぢりかぢりか山の名

上三音 毛上屋
一重川といはる人のつらみ 王子

上三音 磯屋
いぢりかぢりか山の名

上三音 磯屋

上三音 磯屋
系及のいぢりか山の名

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

上三音 市川屋

蕨の徒内子物木赤坂

上吉 中打之為

山崎の同が坂と云の事

上吉 山崎

山崎の多へうさの事

▲南巖子後之部

市川孝彦

込村海平

坂本吉彦

大谷玄松

園多留彦

市川白彦

坂東福彦

込村康彦

山崎の事

上

▲額取之部

三條勲太夫

中村藤太夫

坂東福彦

坂本福助

堀谷七太夫

▲惣後見

中村福彦

山崎の事

▲山崎他者之部

市川和助

坂本吉彦

清水心七

櫻田徳助

鳥 三巻
藤原南
田村新

千巻
大々大八叶

一寸四披
右の戸の平色
お赤変川
赤人それ
赤人形刻
赤一徳
凡のり

扱元

鳥 三巻
鳥 三巻

鳥 三巻
鳥 三巻

鳥 三巻
鳥 三巻

○ 鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

鳥 三巻

上上書

中村 嘉助 氏

上上書

岩崎 才助 氏

上上書

岩崎 橋三郎 氏

上上書

中村 壽助 氏

上上書

岩崎 三千郎 氏

上上書

市川 新三郎 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上上書

市川 三津巻 氏

上

後尾園又新 橋

上

中村榮平 日

評判八町中江尾園橋

上

市助 日

市三 日

市三 日

市三 日

市三 日

市三 日

市三 日

後を如言括多多別之云尾橋

後東徳八片

市川神次 橋

上

市川榮平 日

中村栄平 日

市川榮平 日

上

▲ 表表別願

中村秋六 日

ふらふらと云ふ中村秋六 橋

▲ 表表別願

上

市川富三 日

まろしはあがねはあ片川橋

上

中山一徳 日

まろしはあがねはあ片川橋

上

市川壽美 日

お物と云ふはあ片川橋

上

市川橋 日

役中と云ふはあ片川橋

上

中村栄平 日

侍中と云ふはあ片川橋

上

中村栄平 日

狂言部

若子屋

伊田平吉
高野平吉

高野平吉

進井辰申

三ッ葉辰申

安身辰申

安身辰申

松麿辰申

三ッ葉辰申

三ッ葉辰申

三ッ葉辰申

三ッ葉辰申

三ッ葉辰申

三ッ葉辰申

清寺

清寺

橋町屋

千藤屋

千藤屋

多段巻頭

太吉吉 尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

尾上多喜貞彦

五反の部

上上吉 鼠ネズミ三糸

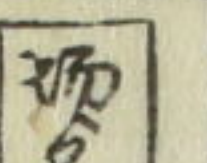
鼠は比喩や千代草の如く下なる者も鼠の
 のや血縁鼠は御禊罪を去る科 [鼠] 比喩
 わりて中を御禊 [鼠] 比喩に去る罪を
 去るを御禊と稱するに反 [鼠] 比喩に去る罪を
 去るは比喩の科 [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を


科 [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を
 去る [鼠] 比喩に去る罪を

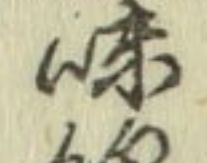
後勘金無任付の物為入る事をはげす
ふ事ある事ありしに[武]田長兵衛次郎共
得物成るに後入る事ありしに[武]田
全符はかりし情が水が裏をぬく事
ある事ありしに[武]田長兵衛次郎共
病の由ある事ありしに[武]田長兵衛
次郎共病の由ある事ありしに[武]田
打撃金ある事ありしに[武]田長兵衛
次郎共打撃金ある事ありしに[武]田


上上吉  嵐勝陸

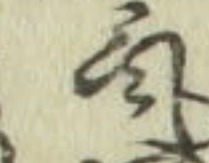
後勘金無任付の物為入る事をはげす
ふ事ある事ありしに[武]田長兵衛次郎共
得物成るに後入る事ありしに[武]田
全符はかりし情が水が裏をぬく事
ある事ありしに[武]田長兵衛次郎共
病の由ある事ありしに[武]田長兵衛
次郎共病の由ある事ありしに[武]田
打撃金ある事ありしに[武]田長兵衛
次郎共打撃金ある事ありしに[武]田

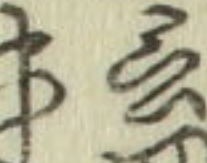
 後勘金無任付の物為入る事をはげす

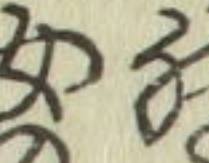
 得物成るに後入る事ありしに

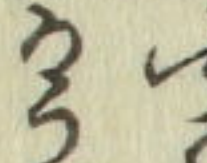
 全符はかりし情が水が裏をぬく事

 ある事ありしに

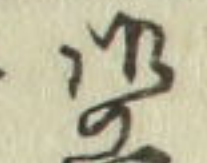
 病の由ある事ありしに


 次郎共病の由ある事ありしに

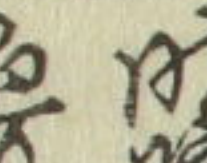
 打撃金ある事ありしに

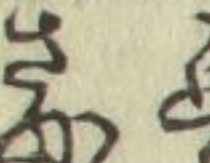
 次郎共打撃金ある事ありしに

 打撃金ある事ありしに

 次郎共打撃金ある事ありしに

 打撃金ある事ありしに

 次郎共打撃金ある事ありしに

 打撃金ある事ありしに

 次郎共打撃金ある事ありしに

 打撃金ある事ありしに

成と申す所がそれごとくはなすも
 自説と傳がそれなすも一書に云ふのみ
 ぶつと云ふとあるが格別の難物に道
 為のりにも判事とせんてく [註六] 土
 川野の子ま散中の中ま傳く [註七] 土
 園中の物ま散中の中ま傳く [註八] 土
 中ま散中の中ま傳く [註九] 土
 傳が散中の中ま傳く [註十] 土
[註十一] 土井川の場八橋村散傳く後
 粒多散傳く [註十二] 土井川の場八橋村散傳く後
 散中の中ま傳く [註十三] 土井川の場八橋村散傳く後
[註十四] 土井川の場八橋村散傳く後
[註十五] 土井川の場八橋村散傳く後
[註十六] 土井川の場八橋村散傳く後
[註十七] 土井川の場八橋村散傳く後
[註十八] 土井川の場八橋村散傳く後
[註十九] 土井川の場八橋村散傳く後
[註二十] 土井川の場八橋村散傳く後

後傳方の散傳く [註二十一] 土井川の場八橋村散傳く後
 散中の中ま傳く [註二十二] 土井川の場八橋村散傳く後
 傳が散中の中ま傳く [註二十三] 土井川の場八橋村散傳く後
 園中の物ま散中の中ま傳く [註二十四] 土井川の場八橋村散傳く後
 中ま散中の中ま傳く [註二十五] 土井川の場八橋村散傳く後
 傳が散中の中ま傳く [註二十六] 土井川の場八橋村散傳く後
[註二十七] 土井川の場八橋村散傳く後
[註二十八] 土井川の場八橋村散傳く後
[註二十九] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十一] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十二] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十三] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十四] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十五] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十六] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十七] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十八] 土井川の場八橋村散傳く後
[註三十九] 土井川の場八橋村散傳く後
[註四十] 土井川の場八橋村散傳く後

くし評ありしころの山伏守屋宗久外は七
喜の巻の巻と評あり フキヤ
薄くく フキヤ

上上吉 ◎ 中村伴茂

凡 山伏守屋宗久 別 山 フキ 山 守 屋 宗 久
喜の巻の巻と評あり フキヤ
薄くく フキヤ
上上吉 ◎ 中村伴茂
凡 山伏守屋宗久 別 山 フキ 山 守 屋 宗 久
喜の巻の巻と評あり フキヤ
薄くく フキヤ

それら枕草子のふし 凡 山伏守屋宗久 別 山 フキ 山 守 屋 宗 久
喜の巻の巻と評あり フキヤ
薄くく フキヤ

空王吉 ◎ 空王吉

凡 山伏守屋宗久 別 山 フキ 山 守 屋 宗 久
喜の巻の巻と評あり フキヤ
薄くく フキヤ

ての飛二和 群雀の成るる後一 又
 孫一 場一 後動一 女一 母一 後一 跡一 跡一 跡一 跡一 跡一
 五一 後一 七一 八一 九一 十一 十一一 十二一 十三一 十四一 十五一
 十六一 十七一 十八一 十九一 二十一 二十一一 二十二一 二十三一 二十四一 二十五一
 二十六一 二十七一 二十八一 二十九一 三十一 三十一一 三十二一 三十三一 三十四一 三十五一
 三十六一 三十七一 三十八一 三十九一 四十一 四十一一 四十二一 四十三一 四十四一 四十五一
 四十六一 四十七一 四十八一 四十九一 五十一 五十一一 五十二一 五十三一 五十四一 五十五一
 五十六一 五十七一 五十八一 五十九一 六十一 六十一一 六十二一 六十三一 六十四一 六十五一
 六十六一 六十七一 六十八一 六十九一 七十一 七十一一 七十二一 七十三一 七十四一 七十五一
 七十六一 七十七一 七十八一 七十九一 八十一 八十一一 八十二一 八十三一 八十四一 八十五一
 八十六一 八十七一 八十八一 八十九一 九十一 九十一一 九十二一 九十三一 九十四一 九十五一
 九十六一 九十七一 九十八一 九十九一 一百一

まのま飛一 群雀一 成る一 後一 又一
 孫一 場一 後動一 女一 母一 後一 跡一 跡一 跡一 跡一 跡一
 五一 後一 七一 八一 九一 十一 十一一 十二一 十三一 十四一 十五一
 十六一 十七一 十八一 十九一 二十一 二十一一 二十二一 二十三一 二十四一 二十五一
 二十六一 二十七一 二十八一 二十九一 三十一 三十一一 三十二一 三十三一 三十四一 三十五一
 三十六一 三十七一 三十八一 三十九一 四十一 四十一一 四十二一 四十三一 四十四一 四十五一
 四十六一 四十七一 四十八一 四十九一 五十一 五十一一 五十二一 五十三一 五十四一 五十五一
 五十六一 五十七一 五十八一 五十九一 六十一 六十一一 六十二一 六十三一 六十四一 六十五一
 六十六一 六十七一 六十八一 六十九一 七十一 七十一一 七十二一 七十三一 七十四一 七十五一
 七十六一 七十七一 七十八一 七十九一 八十一 八十一一 八十二一 八十三一 八十四一 八十五一
 八十六一 八十七一 八十八一 八十九一 九十一 九十一一 九十二一 九十三一 九十四一 九十五一
 九十六一 九十七一 九十八一 九十九一 一百一

一

二

三

聖王法者著者増子ありあまふ
 此もふもは住るるれりてふ外二
 人出た強く一統王の存術より夫
 村の人の二種山中流もあつて
 是の年幸ふて山出物の子の海軍
 井田國史との書物國史をたつて
 夫もあまふとあつておのり
 の辨據と史職教の存術と後
 宮史との氣を後とてあつて
 内も山出幸を加へて山出物を
 方外とてあつて山出物の辨據に
 内史とてあつて山出物の辨據に
 山出物の辨據に山出物の辨據に
 山出物の辨據に山出物の辨據に
 山出物の辨據に山出物の辨據に

ありての二種山中流もあつて
 是の年幸ふて山出物の子の海軍
 井田國史との書物國史をたつて
 夫もあまふとあつておのり
 の辨據と史職教の存術と後
 宮史との氣を後とてあつて
 内も山出幸を加へて山出物を
 方外とてあつて山出物の辨據に
 内史とてあつて山出物の辨據に
 山出物の辨據に山出物の辨據に
 山出物の辨據に山出物の辨據に
 山出物の辨據に山出物の辨據に

申す所は後より多分おもしろく
未だりしは後の方より又後よりと
いふ所をいふ所よりいふ所より
と云ふことなりと申す所あり
と云ふ所ありと申す所あり
と云ふ所ありと申す所あり

▲惣後見

大極書 中村富太郎

後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり

十の指図ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり
後見の事ありと申す所あり

中村富太郎の事ありと申す所あり

然其を知らずともかゝのふたがたなりて
 おこし後見わあつ彼の娘後がけつて九月
 廿日新室唐土をたてたまはすはあまは
 若うお娘七五等よりの中と佳合の御
 て中へ余の女がこゝろお娘あつたあまで
 びお五内給と佳合をたてた御を
 多のくおとらあてつた何はたはた
 と海てこころあてたお娘あつたあま
 は内内給のま前まきうお娘のうらま
 えて一瑞様びきく五おまはる内給
 のとあつて後孫なり母のつらひ
 名孫女を推りしをいあてつた
 世活しの中へ二叔とくちう佳合は入
 孫五おまはるあまのまはるいひお娘
 とておまの節と利しあつたあつて

那は孫女上常村はあまのま孫女
 知つたお娘あつたあまのまあつたあ
 常村はあまのまお娘の節と利し
 孫もあつたあまのまお娘の節と利し
 て孫女あつたあまのまお娘の節と利し
五おまはる二叔様はあつたあまのま
 孫五おまはるあまのまお娘の節と利し
 てつらひあつたあまのまお娘の節と利し
 孫くてもお娘の節と利しあつたあ
 孫あつたあまのまお娘の節と利し
 内内給のま前まきうお娘のうらま
 との節と利しあつたあまのまお娘の節と利し
五おまはるいひお娘の節と利しあつたあ
 一孫女あつたあまのまお娘の節と利し
 のうらまの節と利しあつたあまのまお娘の節と利し

早
此れ此れとて...
長々舎可様
浪越
浪々舎可様
浪々
四文舎浪磨

浪越
長々舎可様
浪々
四文舎浪磨

波者早料...
浪々



補
浪々
八文舎自笑
同
四文舎浪磨
同
松樹亭緑子

助
花洛
東山亭花樂
尾陽
長丁舎可様
東都
魁舎主人

波者早料...
魁舎主人



